

合格体験記

令和2年12月24日

T・F

【受験の動機】

私は現在、弁護士をしています。親が中小企業を経営していた関係から、中小企業のクライアントを支えることが好きであり、目標は、中小企業にとって最も頼りになる弁護士になることです。中小企業に対する理解度を深め、法律的な視点だけでなく、より広い視点からも、問題を見つけ、課題を解決できること、いわば引き出しを増やすことは自分の武器になるだろうと考えたことから、中小企業診断士の資格取得を目指すことにしました。

【昨年までの学習】

独学で勉強しましたが、二次試験への最初のチャレンジは不合格に終わりました。

結果としては、3点足らずでしたが、私としては、勉強さえすれば次回は受かる、という感触は持てませんでした。その当時、私は、診断士試験には、「独特の暗黙的な決めごと」があるように感じておりました。例えば、「問題」と「課題」の違いをこれほどまでに明確に意識させられたことは診断士試験の勉強をするまでなかったですし、事例1で、設問を言葉どおりに受け取れば経営戦略レベルの問題に読めても、人事・組織によせて解答すべき場合があること、などです。

独学ではどうしてもそのような「作法」的な情報へのアクセスの機会が少ないままであることを不安に感じました。そこで予備校を利用すべきと考えました。

【SLAを選んだ理由】

SLAはインターネットで知りました。

私は、①上記の受験的な作法の面で後れを取りたくない、②合格者の方に答案を添削してほしい、ということを重視していましたので、特に②が充実していそうなSLAが魅力的だと思いました。SLAで扱う題材が過去問ということも魅力的に思いました。

私は、司法試験に合格した後、司法試験の予備校で教材や模試を作るアルバイトをしていたことがあるのですが、単に合格者が短期間でつくる予備校の問題と、その道において信頼を得ている学者が何名も動員され一定期間議論した末できる本試験の問題は、その質が全くと言っていいほど異なるものであることを理解していました。

診断士試験においても構造は同じであろうと思っており、予備校が作る問題を解くことは、率直に言って、合格のために不要と考えていましたし、むしろ過去問から学べるだけ学ぶことが近道だ

と考えていました。

(臨場感を持って時間管理をする練習のために模試を受けることは必要と考え、模試は受けました)

以上の点で、SLA のカリキュラムを魅力的と思い、また家が近かったこともあり、受講を決めました。

【講座内容について】

講座ではいろいろとご指導いただきましたが、やはり、私は何よりも、過去問に対して取り組んだ解答を丁寧に添削して下さったことが非常にありがたかったです。時には添削いただいたことを踏まえてもう一度書き直した解答を再度添削していただけたので、ある問題においての自分の中のベストの答案にだんだんと近づいていくことができました。診断士試験は模範解答がない試験ですので、結局は、いろいろな情報をヒントにしながらも、自分が納得できる解答を模索し、制限時間内にそれに近いものを書くということを目指す試験だと思っています。過去問という良質な問題を題材に、繰り返し、きちんと顔が見える関係の実力者に添削していただけるのは、その第 1 段階のトレーニングとして理想的でした

倉前先生は、キーワードが書かれているからよいかという添削ではなく、因果をシビアに見ていただけることはもちろん、解答の言葉遣いの良し悪しやニュアンス的な部分まで含めて指摘して下さいますので、自分では気づけなかった改善点を毎回見つけることができました。これは、どれだけ頑張っても独学ではできないことです、先生の顔が見えるからこそ、指摘を理解しやすく、受け入れやすいという面もありました。

詳細は省きますが、倉前先生に教えていただいた設問分析の仕方についても、汎用性が高く、自分に合っていました。

【2次試験対策について】

SLA を受講したあとの勉強については、事例 1～3 については、SLA で扱わなかった過去問も、①制限時間内で解答を作成すること、②様々な情報収集をして、自分の中の理想の解答を作ること、③そして①と②のギャップを認識し、それを埋めるためにどうすればよいか考える、という方法で、勉強をしていきました。

事例 4 については、個人的な考えとして、「経営分析」がとても大事だと考えていましたので、過去問で何度も練習し、悩ましい問題についても時間をかけて自分なりの結論を出すようにしていました。

また、イケカコは本当に良い教材だと考えており、解けない問題がなくなるように何週も解いたことで力が付きました。事例 4 の重要性を考えると、イケカコはやれるところだけやる、のではなくて、出題範囲と関係するところはすべて理解できるように取り

組むべきだと思います。また事例4は、正解不正解が比較的是っきりしており、努力が報われる科目ですので、やれるだけのことをやらない理由はないと考えています。

【最後に】

途中、なかなかモチベーションを維持することにも苦労しましたが、やりかけたことを投げ出してしまうことに抵抗があったことと、勉強内容自体は面白いものだったため、何とか勉強を続け、良い結果を残すことができました。

中小企業診断の基礎を学んだことは、私の中に、これからもかけがえのない財産として残りますし、これからは、その中で、自分が特に興味のある分野について、仕事を通じてもっと掘り下げて、そして世界が広がっていくのだらうと思うと、とても楽しみに思っています。

このようなワクワクする場所に自分が来れたことが嬉しいですし、この1年、診断士試験合格のための最良の道案内をしていただいた倉前先生には、心から感謝しています。

以上